

律法の発想を超えなさい

マタイによる福音 5:17-37

「わたしが来たのは律法や預言者を廃止するためだ、と思っではならない。廃止するためではなく、完成するためである。はっきり言うておく。すべてのことが実現し、天地が消えうせるまで、律法の文字から一点一画も消え去ることはない。だから、これらの最も小さな掟を一つでも破り、そうするようと人に教える者は、天の国で最も小さい者と呼ばれる。しかし、それを守り、そうするように教える者は、天の国で大いなる者と呼ばれる。」

「言うておくが、あなたがたの義が律法学者やファリサイ派の人々の義にまさっていないければ、あなたがたは決して天の国に入ることができない。

あなたがたも聞いているとおり、昔の人は『殺すな。人を殺した者は裁きを受ける』と命じられている。しかし、わたしは言うておく。兄弟に腹を立てる者はだれでも裁きを受ける。

兄弟に『ばか』と言う者は、最高法院に引き渡され、『愚か者』と言う者は、火の地獄に投げ込まれる。だから、あなたが祭壇に供え物を献げようとし、兄弟が自分に反感を持っているのをそこで思い出したなら、その供え物を祭壇の前に置き、まず行って兄弟と仲直りをし、それから帰って来て、供え物を献げなさい。あなたをる人と一緒に道を行く場合、途中で早く和解しなさい。さもないと、その人はあなたを裁判官に引き渡し、裁判官は下役に引き渡し、あなたは牢に投げ込まれるにちがいない。はっきり言うておく。最後のクアドランスを返すまで、決してそこから出ることはできない。

あなたがたも聞いているとおり、『姦淫するな』と命じられている。しかし、わたしは言うておく。みだらな思いで他人の妻を見る者はだれでも、既に心の中でその女を犯したのである。

もし、右の目があなたをつまづかせるなら、えぐり出して捨ててしまいなさい。体の一部がなくなっても、全身が地獄に投げ込まれない方がましである。もし、右の手があなたをつまづかせるなら、切り取って捨ててしまいなさい。体の一部がなくなっても、全身が地獄に落ちない方がましである。『妻を離縁する者は、離縁状を渡せ』と命じられている。しかし、わたしは言うておく。不法な結婚でもないのに妻を離縁する者はだれでも、その女に姦通の罪を犯させることになる。離縁された女を妻にする者も、姦通の罪を犯すことになる。

また、あなたがたも聞いているとおり、昔の人は、『偽りの誓いを立てるな。主に対して誓ったことは、必ず果たせ』と命じられている。しかし、わたしは言うておく。一切誓いを立ててはならない。

天にかけて誓ってはならない。そこは神の玉座である。地にかけて誓ってはならない。そこは神の足台である。エルサレムにかけて誓ってはならない。そこは大王の都である。また、あなたの頭にかけて誓ってはならない。髪の毛一本すら、あなたは白くも黒くもできないからである。

あなたがたは、『然り、然り』『否、否』と言いなさい。それ以上のことは、悪い者から出るのである。』

説教

心の貧しい人々は幸いである、と語りかけられたイエスの教えもいよいよ本題に突入します。今週と来週の二週にわたって山上の説教の核心を聴いていきます。いままでの律法に対するスーパー律法とも呼べる強烈な教えがイエスの口から語られていきます。このイエスのことばを真摯に受け止めた人は過去から今に至るまで大勢います。そして真剣に受け止めて、そのことばどおりに行った人ほど悩みが大きくなりました。

マタイ福音の5章17節から48節までは6つの反対命題(アンチテーゼ)と呼ばれています。イエスの生きていた当時の律法に対するイエスの考え方を明

瞭にことばにだしてイエスは語りました。

反対命題その1「殺すなかれ」21-26

その2「姦淫するなかれ」29-30

その3「離縁状を渡せ」31-32

その4「偽りを誓うな」33-37

その5「目には目を、歯には歯を」38-42

その6「敵を愛せ」43-48

腹をたてるだけでも殺したのと同じ罪となる、姦淫はもちろんのこと、みだらな思いをもって見ただけでも罪だ、離婚した男は女に姦淫を強要したことになる、誓うということは自分を権威づけることと同じだ、誓ってはならない。きょうの福音箇所17-37節のイエスの反対命題をかみくだいていえばこうないます。

このイエスの教えをどのように受け止めるのか、そしてどのように実現、実行していけばよいのか、怒りんぼで、しょちゅう人を呪っているわたしなんか本当にわからなくなるばかりか、恥じ入って死にたい気分になってしまいます。

この意味のほんとうのところはこうだ、だからあなたはこうしなさい、大丈夫だから安心しなさい、という慰めもあれば、このままじゃダメだ滅びたくなければ悔い改めなさいという脅しもあり、それこそ一つ一つの命題に対して解釈は無数にあります。

「しかし、わたしは言うておく」に続くイエスのことばはすべての人のこころの深いところに届き、突き動かします。きょうは山上の説教の核心とは律法（十戒）に対するイエスの所見、考え方を整理しておしまいとし、来週も引き続きイエスの反対命題の真意を聞き分けることにします。
